

# 高分子・樹脂

## Weekly Intelligence Report

2026-05-09 | 8件 | 1カ国

troy-technical.jp

今週のキーワード

### 循環型材料

リサイクル技術と規制が市場を牽引

8

件  
記事数

1

カ国  
対象国

8.2

%  
半導体材CAGR

2026/08

施行  
PFAS規制

### 今週の全8記事 — 5軸評価で読むべき記事を選ぶ

各列の見方 — 技術新規性：ブレークスルー度合い 実用化距離：製品として使える近さ 市場インパクト：業界全体への影響規模  
データ信頼性：定量データ・査読の有無 日本関連度：日本の企業・サプライチェーンとの直接的関連性

#	記事タイトル	種別	技術 新規性	実用化 距離	市場 インパクト	データ 信頼性	日本 関連度	一行サマリ
#01	ケミカルリサイクル最 前線	解説記事	●●●○ ○	●●●○ ○	●●●● ○	●●●○ ○	●●●● ○	プラスチック廃棄物問題解決に向け、溶媒溶解、化学的解重合、熱化学変換といったケミカルリサイクル技術の重要性を強調するレビュー。
#02	3DプリンターPLA価格	製品紹介	●●●○ ○	●●●● ●	●●●○ ○	●●●○ ○	●●●○ ○	Polymakerが3Dプリンター用PLAフィラメント「Pan Cromax™」シリーズを統一価格3,000円に改定。利便性向上と市場拡大を目指す。
#03	半導体封止材市場予測	市場概観	●●●○ ○	●●●● ●	●●●● ○	●●●○ ○	●●●● ●	半導体封止材・アンダーフィル市場が2032年までに65.6億ドルへ拡大予測。CAGR8.2%で、電子デバイス需要増と先進PKG技術が牽引。
#04	自動車CFRPルーフ市場	市場概観	●●●○ ○	●●●○ ○	●●●● ○	●●●○ ○	●●●● ○	自動車用カーボンファイバールーフ市場は2026年以降成長予測。軽量・高強度だがコストと量産性が課題。技術革新と持続可能性が鍵。
#05	超臨界水ケミカルリ サイクル	企業戦略	●●●● ○	●●●○ ○	●●●● ●	●●●○ ○	●●●● ●	三菱ケミカルとENEOSが超臨界水技術を用いた廃棄プラスチックのケミカルリサイクルで協業。循環型社会実現に貢献を目指す。
#06	DICフェノール樹脂価 格改定	企業戦略	●●●○ ○	●●●● ●	●●●○ ○	●●●○ ○	●●●● ●	DICがフェノール樹脂製品の価格改定を発表。原材料高騰、エネルギー・物流費増に対応し、安定供給と品質維持を図る。
#07	プラリサイクル市場状 況	市場概観	●●●○ ○	●●●● ●	●●●● ○	●●●○ ○	●●●● ○	プラスチックリサイクル市場は原油高騰と需要減退が交錯。バージンプラスチック価格が下落し、リサイクル材の競争環境に影響。
#08	欧州PFAS規制強化	市場危機	●●●○ ○	●●●● ●	●●●● ●	●●●○ ○	●●●● ●	欧州の食品接触包装へのPFAS規制が2026年8月12日施行。猶予期間なしで、単一PFAS 25ppb未満など厳しい基準が適用される。

●●●●○ 高 ●●●○ 中高 ●●●○ 中 ●●●○ 低 | 背景黄色=注目記事

## 今週、判断に影響する3つの問い

### ① ケミカルリサイクルへの投資は、自社の未来を左右するか？

三菱ケミカルとENEOSの協業（#05）は、超臨界水技術で多様なプラ廃棄物を化学原料に戻す画期的な取り組みです。既存の物理リサイクルでは困難な課題を克服し、循環型経済の実現を加速させます。貴社は、この技術トレンドを自社の事業戦略にどう組み込みますか？

### ② 欧州PFAS規制は、自社製品のサプライチェーンを寸断しないか？

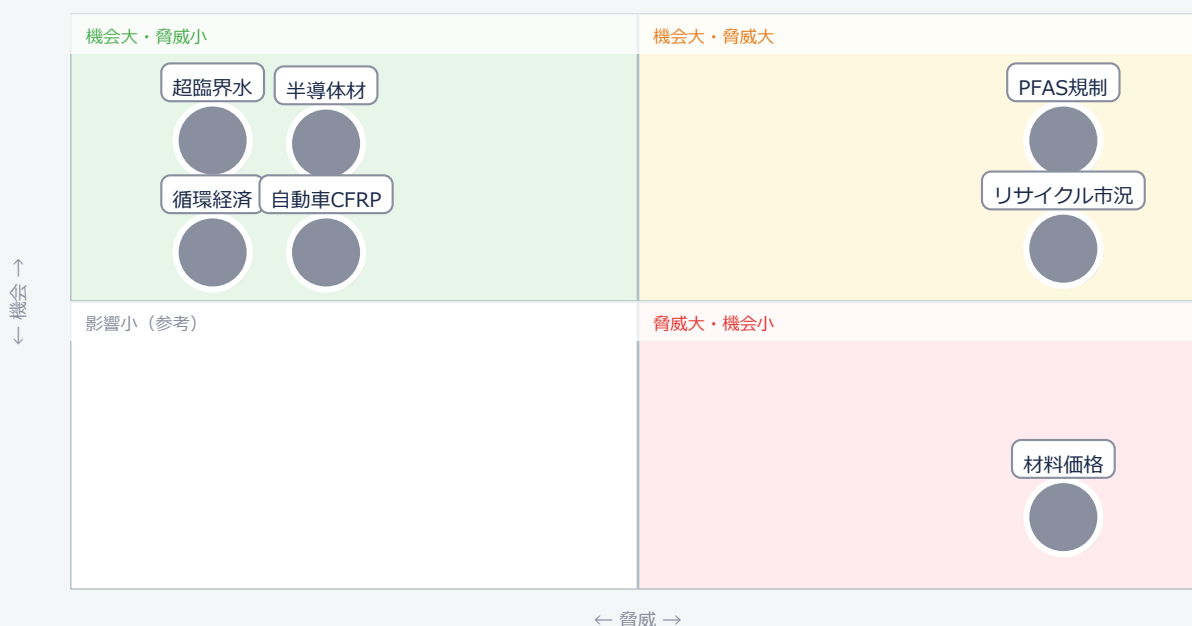
2026年8月からの欧州PFAS規制（#08）は、食品接触包装に単一PFAS 25ppb未満、総PFAS 50ppm未満という厳しい制限を課し、猶予期間がありません。貴社の欧州向け製品や包装材は、この要件をクリアできる代替材料への切り替えを完了していますか？

### ③ 半導体材料市場の成長を、自社は取り込めているか？

半導体封止材・アンダーフィル市場は2032年までに65.6億ドルに成長し、CAGR8.2%と予測されています（#03）。民生、自動車、医療、通信分野での電子デバイス需要増と先進PKG技術が牽引役です。貴社は、この成長市場で競争優位性を確立するための戦略を持っていますか？

## 日本企業にとっての「機会 vs 脅威」

日本企業にとっての「機会 vs 脅威」マトリクス



項目	象限	↑ 機会	↓ 脅威
● 超臨界水	機会大	革新的リサイクル技術獲得	—
● 半導体材	機会大	半導体材料需要増	—
● 循環経済	機会大	新規事業機会創出	—
● 自動車CFRP	機会大	自動車軽量化需要	—
● PFAS規制	注意	代替材料開発機会	欧州市場参入障壁
● リサイクル市況	注意	コスト競争力強化	バージン材との競合
● 材料価格	脅威大	—	コスト上昇圧力

## 深掘り ① — 超臨界水ケミカルリサイクル：日本発の循環経済モデル

#05 | 2026/05/07 | 読売新聞 | 技術新規性●●●●○ 実用化距離●●●○○ 市場インパクト●●●●● データ信頼性●●○○○ 日本関連度●●●●●

三菱ケミカルとENEOSが、廃棄プラスチックのケミカルリサイクルに「超臨界水」技術を導入する協業を開始しました。超臨界水は、水が特定の温度・圧力を超えた状態であり、有機物を効率的に分解する特性を持ちます。この技術により、従来の機械的リサイクルでは困難だった異種混合プラスチックや汚染された廃棄物も、モノマーなどの化学原料に高効率で分解・再利用できる可能性が示されています。

両社の協業は、三菱ケミカルの化学技術とENEOSの大規模プラント操業技術を組み合わせることで、技術開発から商業プラント構築まで一貫した取り組みを目指します。これにより、プラスチックのライフサイクル全体での環境負荷低減と化石資源依存からの脱却が期待され、日本発のクリーンなリサイクル技術として世界規模でのプラスチック問題解決に貢献する可能性を秘めています。

### ▶ 技術者の視点

超臨界水によるケミカルリサイクルは、理論的には非常に有望な技術であり、幅広いプラスチックに対応できる点が魅力です。しかし、超臨界状態を維持するための高温高压設備は初期投資と運用コストが高く、エネルギー消費も課題となります。記事では具体的な分解効率やコストに関する定量データが不足しており、実用化に向けた経済合理性の検証が急務です。【機会】日本の材料・素材メーカーにとっては、この技術が確立されれば、高付加価値な再生原料を安定的に供給する新たなビジネスモデルを構築できます。また、OEMは再生材調達の実験室が広がり、環境規制対応を強化できます。【脅威】技術開発競争が激化する中で、他社の先行技術に追従できない場合、将来的なサプライチェーンから排除されるリスクがあります。特に、コスト競争力で劣る場合、市場での優位性を失う可能性があります。\*次のアクション:\* R&D部門は、超臨界水技術の最新動向と他社技術との比較分析を直ちに行い、自社技術とのシナジーを検討すべきです。経営企画部門は、この技術がもたらす市場変革を予測し、中長期的な事業戦略に組み込むためのロードマップ策定に着手してください。

## 深掘り ② — 欧州PFAS規制：食品接触包装への影響と緊急対応要件

#08 | 2026/04/14 | DGER Japan | 技術新規性●○○○○ 実用化距離●●●●● 市場インパクト●●●●● データ信頼性●●●○○ 日本関連度●●●●●

欧州の包装・包装廃棄物規制（PPWR）に基づき、食品接触包装へのPFAS規制が2026年8月12日から施行されます。この規制は非常に厳格で、単一PFASは25 ppb未満、総PFAS（分解性前駆体含む）は250 ppb未満、総PFAS（ポリマー含む）は50 ppm未満と定められています。最も重要な点は、既存在庫に対する猶予期間が一切ないため、施行日以降に欧州市場に投入される全ての製品が即座に適合を求められることです。

企業は、サプライヤーからのPFASフリー材料の認証を早期に取得し、必要に応じて材料の切り替えを急ぐ必要があります。また、製品中の総フッ素（TF）スクリーニング分析を実施し、規制値遵守を確認する体制の確立が推奨されています。この規制は、欧州市場に製品を供給する日本の食品包装メーカーや化学メーカーにとって、サプライチェーンの再構築と代替材料開発を加速させる喫緊の課題となります。

▶ 技術者の視点

PFAS規制は、その広範な用途と環境・健康への影響から、今後世界的に強化されるトレンドにあります。欧州の規制は特に厳しく、猶予期間がないため、対応が遅れる企業は欧州市場からの撤退を余儀なくされる可能性があります。特に、食品接触材料におけるPFASフリー化は、撥水・撥油性といった機能性の代替が難しく、技術的なハードルが高いです。【機会】PFASフリーの高性能代替材料を開発・提供できる日本の材料メーカーにとっては、大きな市場機会となります。特に、フッ素系ポリマーに代わる新規高分子材料やコーティング技術が求められます。【脅威】日本の食品包装メーカーや、そのサプライヤーである化学メーカーは、欧州市場への輸出が困難になるだけでなく、国内市場でも同様の規制が導入されるリスクに直面します。代替材料への切り替えコストや開発期間が重荷となるでしょう。

**\*\*次のアクション:\*\*** 調達部門は、欧州向け製品に使用される全ての包装材およびその構成材料について、PFAS含有の有無をサプライヤーに緊急確認し、PFASフリー認証を要求してください。R&D部門は、PFASフリー代替材料の探索と評価を最優先で進め、代替技術の早期確立を目指すべきです。

## 深掘り ③ — 半導体封止材・アンダーフィル市場：高成長を捉える戦略

#03 | 2026/05/08 | NEWSCAST | 技術新規性●○○○ 実用化距離●●●●● 市場インパクト●●●●○  
データ信頼性●●●○○ 日本関連度●●●●●

世界の半導体封止材およびアンダーフィル市場は、2025年の38.2億ドルから2032年までに65.6億ドルへと、年平均成長率（CAGR）8.2%で拡大すると予測されています。この成長は、スマートフォン、EV、医療機器、5Gインフラといった民生用電子機器や自動車、通信分野での電子デバイス需要の増加が主な要因です。特に、フリップチップパッケージングやSiP（System-in-Package）などの先進パッケージング技術の進展が、高性能な封止材とアンダーフィルの需要を加速させています。

これらの材料は、半導体デバイスを湿気、熱、機械的ストレスから保護し、信頼性、耐久性、性能を確保するために不可欠です。高密度化・高機能化が進む現代の電子デバイスにおいて、材料の熱管理性能や応力緩和能力はますます重要になっています。日本の半導体材料メーカーは、この成長市場において技術的優位性を維持し、新たな需要を取り込むための戦略が求められます。

### ▶ 技術者の視点

半導体市場の成長は、材料メーカーにとって非常に大きな機会です。CAGR 8.2%という予測は堅調であり、特に先進パッケージング技術の進化は、材料に求められる特性を高度化させます。ただし、市場予測は常に変動するため、定期的な見直しが必要です。また、具体的な数値データはレポート概要からの引用であり、詳細なデータ信頼性はレポート本体で確認すべきです。【機会】日本の半導体材料メーカーは、長年の技術蓄積と高品質な製品で世界市場をリードしており、この成長を直接的に享受できます。特に、次世代パッケージングに対応する低誘電率、高熱伝導性、低応力といった高機能材料の開発は、競争優位性を確立する鍵となります。【脅威】グローバルなサプライチェーンの再編や地政学的リスクにより、材料調達の安定性が揺らぐ可能性があります。また、海外競合他社の技術力向上や価格競争激化も脅威となり得ます。特に、中国市場の動向は注視が必要です。 \*\*次のアクション:\*\* 半導体PKG部門とR&D;部門は、最新の先進パッケージングロードマップを詳細に分析し、求められる材料特性を特定してください。営業部門は、主要顧客の次世代製品開発動向を把握し、早期に共同開発提案を行うことで、市場シェア拡大を図るべきです。

## その他の注目記事

プラスチックリサイクル市場の最新状況：原油価格と需要の変動が交錯 (Far East Network)

TN●○○○○ PR●●●●● MI●●●●○

原油高騰にもかかわらずバージンプラスチック価格が下落し、リサイクル材のコスト競争力が低下。持続可能なリサイクル実現には、コスト効率改善と技術開発が不可欠。

プラスチック廃棄物問題解決への道：ケミカルリサイクリングとアップサイクリングの最前線 (RSC Sustainability)

TN●●●○○ PR●●○○○ MI●●●●○

ケミカルリサイクルは複雑なプラ廃棄物処理に有効だが、大規模実装には効率向上、コスト削減、エネルギー最適化が課題。触媒開発や政策支援が普及の鍵。

DIC株式会社、フェノール樹脂製品の価格改定を発表：市場の変動に対応 (DIC株式会社)

TN●○○○○ PR●●●●● MI●●●○○

DICのフェノール樹脂価格改定は、原材料・エネルギー・物流費高騰が背景。半導体封止材やCFRPなど広範な産業に影響し、サプライチェーン全体のコスト見直しが求められる。

## 今週のアクション提案

記事評価マトリクスと機会/脅威分析を踏まえたアクション提案です。

### ■ 即時（今週中）

- 【調達】欧州向け製品の包装材および構成材料について、PFAS含有の有無をサプライヤーに緊急確認し、PFASフリー認証を要求する。
- 【R&D;】PFASフリー代替材料の探索と評価を最優先で開始し、代替技術の早期確立に向けた計画を策定する。

### ■ 短期（1ヶ月）

- 【R&D;】超臨界水ケミカルリサイクル技術の最新動向と他社技術との比較分析を実施し、自社技術とのシナジーを検討する。
- 【経営企画】半導体封止材・アンダーフィル市場の成長予測を自社事業計画に反映させ、競争優位性を確立するための戦略を立案する。
- 【営業】主要顧客の次世代半導体製品開発動向を把握し、高機能材料の共同開発提案を早期に行う。

### ■ 中長期（四半期～）

- 【R&D;】PFASフリー材料の開発ロードマップを策定し、環境規制強化に先んじた技術開発投資を計画する。
- 【経営企画】循環型材料への移行を見据え、ケミカルリサイクル技術を活用した新たなサプライチェーン構築に向けた事業モデルを検討する。
- 【半導体PKG】先進パッケージング技術の進化に対応する材料特性の要求をR&D;部門と共有し、次世代材料開発を推進する。

# 高分子・樹脂 採用記事全文集

出力日: 2026-05-09

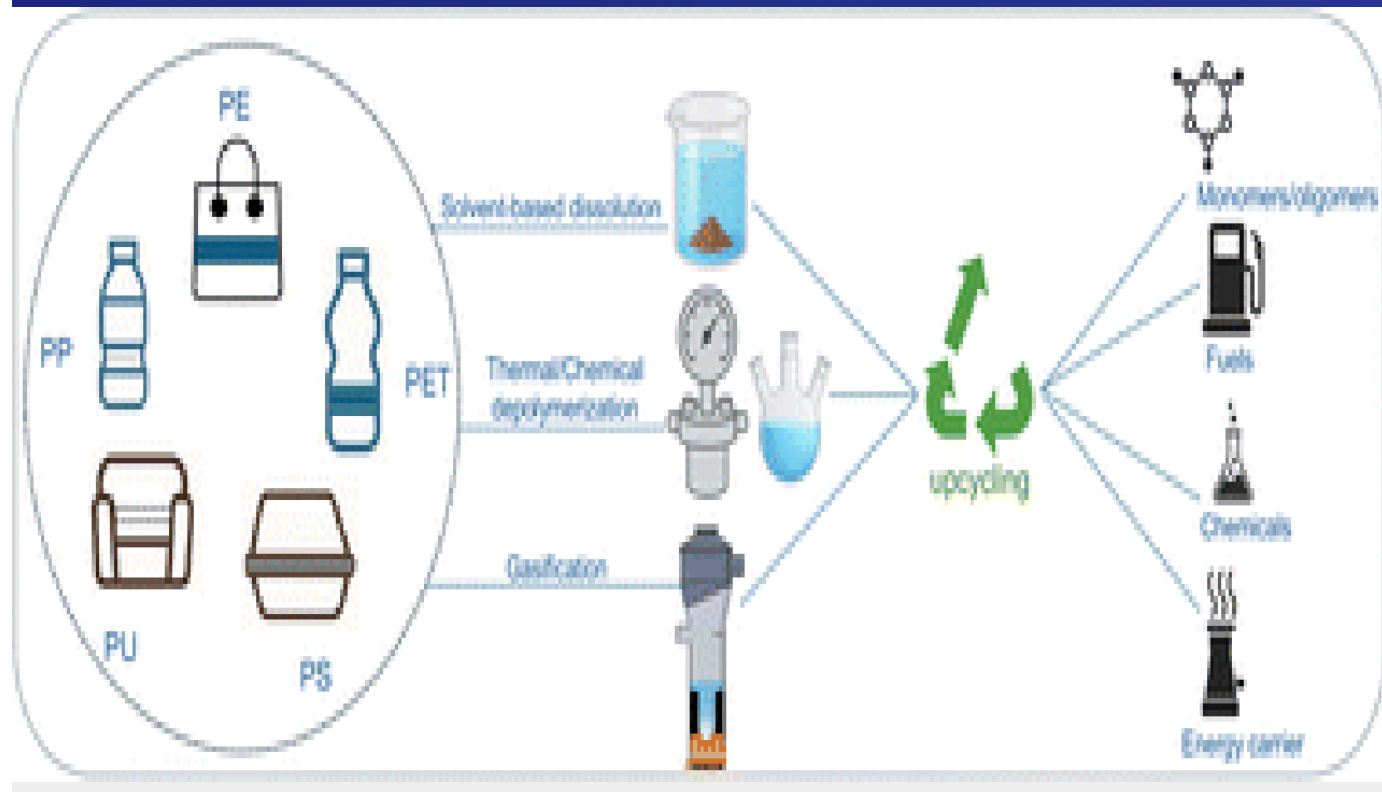
採用記事数: 8 件

## 収録記事一覧

1. 01. プラスチック廃棄物問題解決への道：ケミカルリサイクリングとアップサイクリングの最前線
2. 02. Polymaker、3Dプリンター用PLAフィラメントの新価格戦略：PanCroma™シリーズ統一価格3,000円に
3. 03. 半導体封止材・アンダーフィル市場の急成長：2032年に65.6億ドルへ拡大予測
4. 04. 自動車用カーボンファイバールーフ市場の成長シナリオ：技術革新と持続可能性が鍵
5. 05. 三菱ケミカルとENEOS、超臨界水ケミカルリサイクルで廃棄プラスチック問題に挑む
6. 06. DIC株式会社、フェノール樹脂製品の価格改定を発表：市場の変動に対応
7. 07. プラスチックリサイクル市場の最新状況：原油価格と需要の変動が交錯
8. 08. 欧州PFAS規制強化：食品接触包装への影響と2026年8月からの施行要件

# プラスチック廃棄物問題解決への道：ケミカルリサイクリングとアップサイクリングの最前線

公開日 2026年05月02日 RSC Sustainability 日本



## 概要

世界のプラスチック廃棄物危機が深刻化する中、RSC Sustainabilityのレビューはケミカルリサイクリングとアップサイクリング戦略の重要性を強調しています。2025年までに年間プラスチック生産量が5億トン、廃棄物蓄積量が120億トンを超えると予測され、現状のリサイクル率は約9%に留まります。本レビューでは、溶媒ベースの溶解、化学的解重合、熱化学変換といった先進技術が、複雑な混合プラスチックや汚染された廃棄物の効率的な処理に有効であることを示しています。これらの技術は、物理リサイクルでは困難な課題を克服し、持続可能なプラスチック資源循環の実現に不可欠です。

### 背景：深刻化するプラスチック廃棄物危機

現代社会において、プラスチックは私たちの生活に不可欠な素材ですが、その大量生産と消費は深刻な廃棄物問題を引き起こしています。2025年には世界の年間プラスチック生産量が5億トンに達し、その結果として蓄積される廃棄物は120億トンを超えると予測されています。しかしながら、現在リサイクルされているプラスチック廃棄物は全体の約9%に過ぎず、この状況は環境への負荷を増大させ、地球規模での課題となっています。特に、食品包装や医療用途など多様な製品に利用されるプラスチックは、複合素材や汚染によって物理的リサイクルが困難なケースが多く、新たなアプローチが求められています。

### 主要内容：ケミカルリサイクリングとアップサイクリングの革新

RSC Sustainabilityによる包括的なレビューでは、この課題に対応するためのケミカルリサイクリングとアップサイクリングの戦略に焦点が当てられています。これらの技術は、プラスチックを高付加価値な化学原料や製品へと変換することで、従来の機械的リサイクルでは対応できない複雑なプラスチック廃棄物を処理することを可能にします。

- **溶媒ベースの溶解:** 特定の溶媒を使用してプラスチックを選択的に溶解し、高純度のポリマーを回収する技術です。これにより、異種プラスチックの分離が容易になり、品質の高い再生材を得ることができます。
- **化学的解重合:** プラスチックをモノマーやオリゴマーといった元の化学成分に分解するプロセスです。PETやポリアミドなど、特定のポリマーに対して高い効率を発揮し、バージン材と同等の品質を持つ原料を再生産できる可能性があります。
- **熱化学変換:** 熱分解やガス化といった手法を用いて、プラスチックを燃料油、化学原料、合成ガスなどに変換します。これにより、多種多様なプラスチック混合物や汚染された廃棄物もエネルギー源や化学製品の原料として利用できる道が開かれます。

## 影響と展望：持続可能な社会への貢献と技術的課題

これらの高度なアップサイクリング戦略は、プラスチック廃棄物の大幅な削減と資源の有効活用に貢献し、循環型経済の実現に向けた重要な一歩となります。特に、品質劣化が避けられない物理リサイクルと比較して、ケミカルリサイクルは高付加価値製品への変換が可能であり、より広範なプラスチックタイプに対応できる点が大きな利点です。しかし、これらの技術を大規模に実装するには、反応効率の向上、コスト削減、そしてエネルギー消費の最適化など、依然として多くの技術的・経済的課題が存在します。今後は、触媒開発の進展や再生可能エネルギーの活用、さらに政策支援と社会受容の促進が、これらの革新的なリサイクル技術の普及を加速させる鍵となるでしょう。

元記事: <https://troy-technical.jp/%E4%B8%96%E7%95%8C%E3%81%AE%E3%83%97%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%83%81%E3%8>

収集日: 2026年05月08日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

# Polymaker、3Dプリンター用PLAフィラメントの新価格戦略：PanCroma™シリーズ統一価格3,000円に

公開日 2026年04月25日 Polymaker 日本



## 概要

Polymaker社は、3Dプリンター用フィラメント「パンクロマ™PLA」シリーズの全製品を3,000円（税込）の統一価格に改定しました。この価格戦略は、ブランド認知度を向上させ、より多くのユーザーに高品質なフィラメントを手軽に提供することで、利便性の向上を目指すものです。Polymakerはノズル詰まりを軽減し、上質な仕上がりを実現する製品で顧客満足度を高めており、合わせて発表された「Polymaker Preset Platform」により、最適なプリント設定が容易に見つけるようになります。

### 背景：3Dプリンティング市場の成長とユーザーニーズ

近年、3Dプリンティング技術はプロトタイピングから最終製品製造へと応用範囲を広げ、多くの産業でその重要性が増しています。これに伴い、3Dプリンター用フィラメントの市場も拡大しており、ユーザーは品質、使いやすさ、そしてコストパフォーマンスを重視する傾向にあります。特に、FDM（熱溶解積層）方式の3Dプリンターで広く使用されるPLA（ポリ乳酸）フィラメントは、その手軽さと環境配慮から高い人気を誇ります。Polymaker社は、このような市場の動向とユーザーからのフィードバックに応える形で、新たな価格戦略とサポート体制を打ち出しました。

### 主要内容：価格改定と新サービス発表

Polymaker社は、同社の主力製品である3Dプリンター用フィラメント「パンクロマ™PLA」シリーズの価格を、全ての製品において3,000円（税込）の統一価格に改定することを発表しました。この大胆な価格戦略は、Polymakerブランドの市場での認知度をさらに高め、より多くの3Dプリンターユーザーに高品質なフィラメントを、より手頃な価格で提供することを目的としています。

- **統一価格戦略の目的:** 複数の種類のフィラメントを扱うユーザーや、新規に3Dプリンティングを開始するユーザーにとって、製品選択時の価格比較の手間を省き、購入プロセスの簡素化と全体的な利便性の向上を図ります。
- **製品品質と顧客満足度:** Polymakerのフィラメントは、その高い品質が評価されており、特にノズル詰まりの発生を抑制し、造形物の表面品質を向上させる特性を持っています。これにより、ユーザーはよりスムーズで高品質な3Dプリント体験を享受できます。
- **「Polymaker Preset Platform」の導入:** 価格改定と同時に、新サービス「Polymaker Preset Platform」も公開されました。このプラットフォームは、ユーザーが所有する多様なFDM方式3Dプリンターに対応した最適なプリント設定を、簡単に検索・適用できるように設計されています。これにより、特に初心者ユーザーや異なるプリンターを使いこなす上級ユーザーの作業効率と成功率が大幅に向上すると期待されます。

## 影響と展望：市場への波及と技術的意義

Polymakerのこの価格戦略は、3Dプリンター用フィラメント市場において競争を活性化させる可能性を秘めています。高品質なフィラメントが手頃な価格で提供されることで、3Dプリンティングの普及がさらに加速し、個人ユーザーから教育機関、中小企業まで、幅広い層での活用が促進されるでしょう。技術的な視点から見ると、フィラメントの性能だけでなく、最適なプリント設定を提供するプラットフォームの提供は、ユーザーエクスペリエンスの向上という点で重要です。これは、単なる材料供給を超え、3Dプリンティングエコシステム全体の最適化を目指す動きであり、今後の3Dプリンティング技術の発展に寄与すると考えられます。特に、PLAは再生可能な資源から製造されるため、環境負荷低減の観点からもその利用拡大は望ましい方向性です。

元記事: <https://www.poly-maker.jp/>

収集日: 2026年05月08日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

# 半導体封止材・アンダーフィル市場の急成長：2032年に65.6億ドルへ拡大予測

公開日 2026年05月08日 NEWSCAST 日本



SEMICONDUCTOR  
ENCAPULATION MATERIAL  
UNDERFILL \$6.56 BILLION  
2032

## 概要

本記事はNEWSCASTが紹介する市場調査レポートの概要です。レポートは、半導体封止材およびアンダーフィルに関する世界市場が2025年の38.2億ドルから2032年までに65.6億ドルへと成長し、2026年から2032年にかけてCAGR8.2%で拡大すると予測しています。この成長は、民生用電子機器、自動車、医療、通信など、多様な産業での電子デバイス需要の増加が主因です。フリップチップパッケージングやSiPといった先進パッケージング技術の進展も市場の成長を加速させています。

## 詳細

本記事はNEWSCASTが紹介する市場調査レポートの概要です。

### レポート概要

本レポートは、世界の半導体封止材およびアンダーフィル市場の包括的な分析を提供しており、2026年から2032年までの期間における市場の成長予測と主要な動向に焦点を当てています。半導体封止材とアンダーフィルは、集積回路の信頼性、耐久性、性能を確保するために不可欠な材料であり、特に高密度化・高機能化が進む現代の電子デバイスにおいてその重要性は増しています。

### 主要な調査結果

- **市場規模と成長予測:** 世界の半導体封止材およびアンダーフィル市場は、2025年に38億2,600万米ドルと評価されており、2032年までに65億6,900万米ドルに達すると予測されています。これは、2026年から2032年までの予測期間において年平均成長率（CAGR）8.2%という堅調な成長を示します。
- **成長の主要因:**
  - **電子デバイス需要の増加:** 民生用電子機器（スマートフォン、タブレット）、自動車（ADAS、EV）、医療機器、通信インフラ（5G、データセンター）など、多様な産業分野で電子デバイスの需要が継続的に増加しています。
  - **先進パッケージング技術の進展:** フリップチップパッケージング、System-in-Package（SiP）、チップレット技術などの先進的な半導体パッケージング技術の採用が加速しており、これらの技術はより高性能な封止材とアンダーフィルを必要とします。
  - **信頼性と耐久性への要求:** 半導体デバイスの複雑化と、過酷な動作環境での使用が増えるにつれて、湿気、熱、機械的ストレスからデバイスを保護するための堅牢な封止材とアンダーフィルの需要が高まっています。
- **市場への影響:** これらの材料は、半導体部品を環境要因から保護し、機械的ストレスを軽減し、熱管理を改善することで、デバイス全体の信頼性と長寿命化に貢献します。

## 発行会社について

NEWSCASTは、企業からのプレスリリースや市場調査レポートの概要を配信する日本のオンラインプラットフォームです。様々な産業分野の最新情報を提供し、企業がその製品やサービスを広くPRするための効率的なチャネルとして機能しています。また、ビジネスパーソンや投資家が市場トレンドを把握するための重要な情報源ともなっています。

元記事: <https://newscast.jp/smart/news/4789230>

収集日: 2026年05月08日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

# 自動車用カーボンファイバールーフ市場の成長シナリオ： 技術革新と持続可能性が鍵

公開日 2026年05月08日 ドリームニュース 日本



## 概要

本記事はドリームニュースが紹介する調査レポートの概要です。カーボンファイバー強化プラスチック（CFRP）製の車両ルーフ市場は、2026年以降の成長が見込まれています。CFRPは軽量・高強度という優れた特性を持つものの、材料費や製造プロセスのコストが課題です。しかし、技術革新と持続可能な製造プロセスの導入により、2026年から2033年にかけて市場は拡大すると予測されています。この市場は、高性能化とコスト削減の努力を通じて、新たな需要を創出すると期待されています。

## 詳細

本記事はドリームニュースが紹介する調査レポートの概要です。

### レポート概要

ドリームニュースが発表したカーボンファイバー車両ルーフ業界に関するレポートは、2026年以降の市場成長シナリオと、この分野における投資機会をデータに基づいて分析しています。レポートは、カーボンファイバー強化プラスチック（CFRP）が自動車業界にもたらす軽量化と性能向上の可能性に焦点を当てつつ、材料コスト、製造コスト、量産性といった主要な課題も詳細に検討しています。

### 主要な調査結果

- **CFRPの特性と自動車産業への貢献:** CFRPは、その比類ない軽量性と高強度特性により、自動車の燃費向上、電動車（EV）の航続距離延長、そして全体の走行性能向上に大きく貢献します。車両ルーフへの採用は、車両重心の低下にも寄与し、運動性能の改善につながります。
- **市場成長の予測:** CFRP車両ルーフ市場は、2026年から2033年にかけて持続的な成長が見込まれています。この成長は、CFRP成形技術の進化、リサイクル技術の発展、および自動車メーカーによる採用拡大によって推進されると予測されています。
- **コストと量産性の課題:**
  - **高コスト:** カーボンファイバー材料自体の価格が高いことに加え、複雑な成形プロセスと厳格な品質管理が要求されるため、製造コストも高くなりがちです。これは、量産車への広範な採用を妨げる主要な障壁の一つです。
  - **量産性の限界:** 現在の製造技術では、CFRP部品の量産効率が従来の金属部品に比べて低く、生産能力の拡大が課題となっています。
- **技術革新と持続可能性:** 業界は、製造コストを削減し、生産効率を高めるための技術革新に継続的に取り組んでいます。これには、新しい成形方法の開発、自動化の導入、そしてリサイクル可能なCFRP材料の開発が含まれます。これらの努力は、持続可能な自動車製造への貢献も目指しています。
- **新たな需要創出:** 高性能スポーツカーや高級EVだけでなく、将来的にはより幅広いセグメントの車両での採用が期待されており、これにより新たな需要が創出される可能性があります。

## 発行会社について

ドリームニュースは、企業や組織からのプレスリリースを配信する日本の主要なオンラインサービスです。新しい製品やサービス、市場調査レポートの発表など、様々な企業情報を広くメディアや一般消費者に提供することで、企業の認知度向上と情報伝達を支援しています。ドリームニュースは、信頼性の高い情報提供を重視しています。

元記事: <https://www.dreamnews.jp/press/0000348752>

収集日: 2026年05月08日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

# 三菱ケミカルとENEOS、超臨界水ケミカルリサイクルで 廃棄プラスチック問題に挑む

公開日 2026年05月07日 読売新聞 日本



## 概要

三菱ケミカルとENEOSが連携し、廃棄プラスチックのケミカルリサイクルに「超臨界水」技術を導入する新たな取り組みを開始しました。この革新的なプロジェクトは、環境負荷の大きいプラスチック廃棄物問題の解決を目指すものです。超臨界水を用いることで、多様なプラスチックを高効率で分解し、化学原料として再利用する循環型社会の実現に貢献します。両社の協業は、日本におけるプラスチックリサイクル技術の発展を大きく加速させる可能性を秘めています。

### 背景：プラスチック廃棄物問題とリサイクルの限界

世界中で増え続けるプラスチック廃棄物は、海洋汚染や地球温暖化といった深刻な環境問題を引き起こしています。従来の機械的リサイクルでは、プラスチックの種類が混在している場合や汚染がひどい場合に、品質の低下や処理の困難さといった課題があり、全ての廃棄物を効果的に再資源化することは困難でした。そのため、プラスチックを化学的に分解し、元の原料に戻すケミカルリサイクル技術への期待が高まっています。

### 主要内容：超臨界水を用いたケミカルリサイクルの開拓

読売新聞の報道によると、日本の大手化学メーカーである三菱ケミカルと、石油元売り大手のENEOSが協業し、廃棄プラスチックのケミカルリサイクルに「超臨界水」技術を導入する新たなプロジェクトに着手しました。超臨界水とは、水がその臨界点（温度374℃、圧力22.1MPa）を超えた状態を指し、気体と液体の両方の性質を併せ持ちます。この特殊な状態の水は、有機物を効率的に分解する能力を持つことが知られています。

- **超臨界水プロセスの特徴:** 超臨界水は、高い浸透性と溶解性を持ち、通常分解が困難なプラスチックの高分子鎖を効果的に切断し、モノマーなどの低分子化合物へと分解することができます。この技術は、異種プラスチックの混合物や汚染されたプラスチック、さらに複合素材など、これまでのリサイクルが困難だった幅広い種類の廃棄物に対応できる可能性を秘めています。
- **両社のシナジー効果:** 三菱ケミカルは長年の化学技術と材料開発のノウハウを持ち、ENEOSは石油精製で培った大規模プラント操業技術とエネルギー供給能力を有しています。この協業により、超臨界水ケミカルリサイクルの技術開発から、その実用化、そして大規模な商業プラントの構築まで、一貫した取り組みが期待されます。

## 影響と展望：持続可能なプラスチック資源循環への貢献

三菱ケミカルとENEOSによるこの先進的な取り組みは、プラスチック廃棄物問題に対する画期的な解決策となる可能性を秘めています。超臨界水ケミカルリサイクルが実用化されれば、プラスチックのライフサイクル全体における環境負荷を大幅に低減し、化石資源への依存度を減らすことができます。これは、プラスチックの「ごみ」を「資源」へと転換する循環型社会の実現に向けた重要なステップです。今後は、技術のさらなる最適化とコスト効率の向上が求められますが、この協業が日本発のクリーンなリサイクル技術として、世界規模でのプラスチック問題解決に貢献することが期待されます。

元記事: <https://www.yomiuri.co.jp/economy/20260507-GYT1T00212/>

収集日: 2026年05月08日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

# DIC株式会社、フェノール樹脂製品の価格改定を発表：市場の変動に対応

公開日 2026年05月07日 DIC株式会社 日本



## Color & Comfort

### 概要

DIC株式会社は、フェノール樹脂製品の価格改定を発表しました。この決定は、原材料価格の高騰、エネルギーコストの上昇、および物流費の増加など、市場環境の大きな変動に対応するためのものです。フェノール樹脂は、半導体封止材や炭素繊維強化プラスチック（CFRP）のマトリックスなど、多岐にわたる産業分野で不可欠な熱硬化性ポリマーです。今回の価格改定は、関連産業のコスト構造に影響を与える可能性があります。安定供給と品質維持のための措置として位置づけられます。

### 背景：変化する市場環境と化学品コスト

化学産業、特に高分子材料の分野では、原材料の調達コスト、原油価格に連動するエネルギーコスト、そして国際的な物流費の変動が、製品価格に直接的な影響を与えます。近年、これらのコスト要素は世界的なサプライチェーンの混乱や地政学的なリスクによって大幅に上昇する傾向にあり、製造業者は製品の安定供給と品質維持のために価格戦略の見直しを迫られています。

### 主要内容：DICによるフェノール樹脂価格改定

DIC株式会社は、このような厳しい市場環境に対応するため、同社のフェノール樹脂製品の価格改定を実施することを発表しました。フェノール樹脂は、その優れた耐熱性、機械的強度、寸法安定性、および電気特性から、多岐にわたる基幹産業で利用される重要な熱硬化性ポリマーです。半導体封止材、電気部品、自動車部品、建材、そして炭素繊維複合材料（CFRP）のマトリックス樹脂など、その応用範囲は非常に広範です。

- **価格改定の要因:** 主な要因として、フェノール、ホルムアルデヒドなどの主要原材料価格の高騰、生産に必要な電力や燃料費といったエネルギーコストの上昇、および国際的な輸送コストの増加が挙げられます。これらのコスト増は、企業努力だけでは吸収しきれないレベルに達したと判断された模様です。
- **価格改定の目的:** DIC株式会社は、今回の価格改定を通じて、フェノール樹脂製品の安定的な供給体制を維持し、長期的な視点での製品品質と技術サービスの向上を図るとしています。これは、顧客企業への持続的な価値提供を目的とした戦略的な措置です。
- **影響を受ける製品群:** 具体的な価格改定の対象製品群は明記されていませんが、一般的に、フェノール樹脂を主成分とする各種成形材料、積層板用樹脂、接着剤、塗料用樹脂などが影響を受けると推測されます。

## 影響と展望：産業界への波及と今後の対応

DIC株式会社のフェノール樹脂価格改定は、同製品を中間材料として使用する自動車、エレクトロニクス、建設、航空宇宙などの広範な産業に波及効果をもたらす可能性があります。これらの産業のメーカーは、サプライチェーン全体のコスト構造を見直し、製品価格への転嫁やコスト削減策を検討する必要があります。また、今回の改定は、高機能ポリマー市場全体における価格トレンドの指標となる可能性も秘めており、他の化学製品メーカーの動向にも影響を与えるかもしれません。今後は、サプライヤーとの長期的な関係構築、代替材料の探索、生産効率のさらなる改善などが、各企業にとって重要な経営課題となるでしょう。

元記事: <https://www.dic-global.com/ja/>

収集日: 2026年05月08日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

# プラスチックリサイクル市場の最新状況：原油価格と需要の変動が交錯

公開日 2026年05月06日 Far East Network 日本



## 概要

Far East Networkが発行したレポートは、2026年5月1日時点のプラスチックリサイクル市場の状況を分析しています。高騰する原油価格と需要減退という二つの相反する力が市場を形成しており、ニューヨーク原油価格は週の終値で101.94ドルに達しました。しかし、バージンプラスチック樹脂の価格は原油価格の動向に追従せず、むしろ下落傾向を示しています。これは、世界経済の減速と中国における高水準な在庫が主要因であり、リサイクルプラスチックの競争環境に新たな課題と機会をもたらしています。

### 背景：グローバル経済と原油市場の変動

プラスチックリサイクル市場は、原油価格の動向と密接に連動していますが、同時に世界経済の健全性にも大きく左右されます。近年、地政学的な緊張やサプライチェーンの混乱により、原油価格は高騰と変動を繰り返してきました。しかし、それに伴うバージンプラスチック樹脂の価格動向は、必ずしも原油価格に直接追従するわけではなく、需要側の要因も大きく影響を与えています。この複雑な相互作用が、リサイクルプラスチックの競争力と市場全体の健全性に影響を与えています。

### 主要内容：リサイクル市場における価格と需要の攻防

Far East Networkの「プラスチックリサイクル市場状況レポート（2026年5月1日号）」は、この二つの力がどのように市場に作用しているかを詳細に分析しています。レポートによると、ニューヨーク原油（WTI）の価格は週の終値で101.94ドル/バレルを記録し、一時106.88ドル/バレルまで上昇したものの、最終的には安定した水準で推移しました。ブレント原油価格も同様の動向を示しています。

- **バージンプラスチック価格の「デカップリング」**：注目すべきは、原油価格が高騰しているにもかかわらず、ほとんどのバージンプラスチック樹脂（PP、PE、PETなど）の価格がこのエネルギーコストのトレンドに追従せず、むしろ下落傾向を示している点です。この「デカップリング」現象は、リサイクル市場に大きな影響を与えます。
- **需要減退と高水準な在庫**：このバージンプラスチック価格の下落は、主に世界経済の減速と中国における高水準な国内在庫に起因しています。初期の「戦争プレミアム」や地政学的混乱によるスポット価格の上昇圧力は薄れ、現在は高在庫と緩やかな在庫調整が市場の主要な特徴となっています。
- **リサイクル市場への影響**：バージンプラスチックの価格が低い場合、リサイクルプラスチックはコスト競争力を失いやすくなります。これにより、リサイクル業者は収益性の維持に苦慮し、投資意欲が減退する可能性があります。一方で、持続可能性への意識の高まりや環境規制の強化は、リサイクル材料への一定の需要を維持する要因ともなっています。

## 影響と展望：持続可能なリサイクルの課題と機会

この市場状況は、プラスチックリサイクル業界にとって複雑な課題を提起しています。原油価格の変動とグローバルな経済状況が、リサイクル材料の需要と供給のバランスを常に変化させています。長期的な視点で見ると、政府によるリサイクル促進政策、消費者の環境意識の高まり、そしてケミカルリサイクルなどの先進技術の発展が、リサイクルプラスチックの市場競争力を高める鍵となるでしょう。業界は、コスト効率の改善、多様なプラスチック廃棄物に対応する技術開発、そして持続可能なサプライチェーンの構築を通じて、これらの課題を克服し、新たな機会を捉える必要があります。

元記事: <https://www.fareastnetwork.co.jp/market/theme25591/>

収集日: 2026年05月08日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

# 欧州PFAS規制強化：食品接触包装への影響と2026年8月からの施行要件

公開日 2026年04月14日 DGER Japan 日本



## 概要

DGER Japanの記事は、欧州の包装・包装廃棄物規制（PPWR）に基づく食品接触包装へのPFAS規制が2026年8月から施行されることを報じています。この規制では、単一PFASが25 ppb未満、総PFAS（分解性前駆体含む）が250 ppb未満、総PFAS（ポリマー含む）が50 ppm未満に制限されます。既存在庫に対する猶予期間がないため、2026年8月以降に市場投入される製品は即座に適合が必要。企業はPFASフリー材料の早期認証と全フッ素スクリーニングが求められます。

## 詳細

### 背景：PFAS規制の世界的動向と環境問題

PFAS（パーフルオロアルキル化合物およびポリフルオロアルキル化合物）は、撥水性、撥油性、耐熱性といった優れた特性から、食品包装、衣料品、消火剤など様々な製品に広く利用されてきました。しかし、その環境中での分解されにくさ（永遠の化学物質）と人体への有害性が指摘され、世界的にその規制が強化される傾向にあります。特に欧州連合（EU）は、環境保護と消費者安全の観点から、PFASの使用に対する最も厳格な規制を導入しています。

### 主要内容：欧州PPWRにおける食品接触包装のPFAS規制

DGER Japanの報道によると、欧州の包装・包装廃棄物規制（PPWR: Packaging and Packaging Waste Regulation）に基づき、食品接触包装におけるPFAS規制が2026年8月12日より施行されます。この規制は、従来のプラスチック関連規制とは異なり、非常に厳しい基準と運用が特徴です。

#### ● PFASの具体的な規制値:

- 単一PFAS（非ポリマー）：25 ppb未満
- 総PFAS（分解性前駆体を含む）：250 ppb未満
- 総PFAS（ポリマーを含む）：50 ppm未満

● **猶予期間の欠如:** 企業にとって最も大きな課題の一つは、既存在庫に対する「猶予期間がない」点です。これは、2026年8月12日以降に欧州市場に投入される全ての製品（倉庫内の未充填包装や通関される輸入包装を含む）が、直ちに新しい規制に適合していなければならないことを意味します。

● **対応への推奨事項:** 欧州委員会は、企業に対し段階的なアプローチを推奨しています。まず「総フッ素（TF）」の測定を行い、TF値が50 mg/kg（50 ppm）未満であれば、PFAS非含有とみなされる可能性があります。このスクリーニング検査は、初期段階での迅速な対応を可能にします。

### 影響と展望：企業への影響と今後の対策

このPFAS規制の強化は、欧州市場に食品包装または包装食品を輸出する全ての企業に直接的かつ深刻な影響を与えます。特に、猶予期間がないため、企業は施行日までにサプライチェーン全体で対応を完了させる必要があります。

- **サプライチェーンの再構築:** サプライヤーからPFASフリー材料の認証を早期に取得し、必要に応じて材料の切り替えを行うことが不可欠です。
- **検査体制の強化:** 製品中の総フッ素スクリーニング分析を実施し、規制値遵守を確認する体制を確立する必要があります。これにより、予期せぬリスクを回避し、市場での製品回収などの重大な事態を防ぐことができます。
- **技術革新の促進:** PFASフリーの代替材料の開発が加速され、環境に配慮した新しい高分子材料への投資とイノベーションが促進されるでしょう。これは、持続可能な包装ソリューションへの移行を促す重要な転換点となります。

今回の欧州の動きは、他の地域でも同様の規制強化につながる可能性があり、グローバルな化学品産業および包装産業全体にとって、PFAS代替技術への投資と開発が急務となっています。

---

元記事: <https://www.dger.jp/%E6%9C%80%E6%96%B0%E6%83%85%E5%A0%B1/467-europe-pfas-regulations-for-food-contact-packaging-to-take-effect-in-august-2026.html>

収集日: 2026年05月08日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)